社說

增稅計畫都て非なり

歳入の不足は増稅に依て補ふの外ある可らず一時の遣繰算段は我輩の斷じて取らざる所なりとして扨その方法如何すべきやと云ふに國家必要の費用を國民に負擔せしむるは政治上當然の行爲にして別に考を要せざるが如くなれども實際増稅を行はんとするには自から人氣を害せざるの略なきを得ず政治家の注意すべき所のものなり抑も増稅とは人民より金を取るみなるにして租稅は國民の義務とは云ひながら銘々の私情に於て之を喜ぶものはある可らず否な實際には全く無稅なれば政治家にして思ひ増稅に苦情の多き由縁なれば政治家の身としては成る可く苦情の少なきものに増して目的を達するみなる稅略の得たるものなれば本來租稅は如何なる種類に取るも其負擔は詰り全國民の間に平均するの結果を見るものにして孰れを取るも差支ある可らず既に差支なしとすれば成る可く苦情の多きものを避けて其少なきものに取る可し强ひて苦情を犯して之を取らんとして果して取り得れば妙なれども世間の反對の爲めに増稅の目的を達する能はざるは奇度の經驗、明白なるにも拘はらず更らに其失策を繰返さんとするは何事ぞや昨今世上に傳ふる政府の増稅計畫なりと云ふを聞くに砂糖と云ひ煙草と云ひ宅地と云ひ又は所得稅と云ひ孰れも選み得て苦情の多きものゝみなるを見る可し砂糖稅は前號にも論じたる如く日獨條約の規定上、二割以上の關稅を課するを得ず或は輸入の上にて内地の製産品と同樣の稅率を課するは差支なけれども僅々の稅額を取むる爲めに恰も一種の營業稅を課して徒に手數の煩雜を贏ち得るの結果に過ぎざるのみ煙草稅は漸く專賣煙草の專賣法を設けて之を行ふや行はざるに更らに稅率を増し或は法の根柢より改めて其製造賣捌迄でも政府に引受けんとするが如き他の苦情は兎も角もとして果して實行の成算あるや否や覺束なきみならず可し宅地稅に至りては近年來地價の騰貴は著しくして現に東京府下の地面の如き前年に比すれば何十倍の高價を呈したるは云ふまでも立く隣て全國の市街地孰れも價を増さゞるはなく和逆もなき事實にして此點よりすれば宅地稅の如き大に増加して差支なけれども實際上事の容易ならざる其次第は宅地を所有する者の中には法律の心得もあり政論にも聴し者もあるなる所謂自利の强多くして其勢力自から備る可らずいよ〳〵増稅とあらんには苦情の唯一しきは必然にして或は政黨の仲間なるに反對の傳聞を見るとならん容易に實行の難きを知る可し又所得稅の如きは我輩の前度述べたる如く其調査甚だ困難にして恰も人の寶室に踏込み算筭の引出しを探るに非ざれば眞實の目的を達す可らず財産の秘密を旨とする我國人の習慣に反する稅法にして増稅はたゞか寧ろ廢止を希望する所のものなり右の如く計へ來れば増稅の計畫は孰れも苦情の多き稅目のみにして若しも斯る稅目に對して増率を行ふみともあらんには徵收の手數甚だ困難にして實際の收入、意の如くならざる其上に苦情百出、大に世間の反對を招かざるを得ず骨折損と云ふ可きのみ政府に果して増稅の決心あらんには斯る無益の勞は止めにして專ら酒稅を増す可きのみ酒稅の増加亦自から苦情を免かる可らずと雖も實際に酒稅は金額の大なる割合に營業者の數、少なきが故に反對の聲も自から低きのみならず酒造の營業人を見れば各地方にても多くは中以上の社會に位して智慮分別にも乏しからざる人物なれば漫に不通の苦情を唱ふるの愚を爲すものはある可らず既に増稅の免かる可らざるを覺悟するときは自から其負擔を甘んずる事代りに稅源保護の方法に付き政府に向て實行を望むみとならん左れば政府に於ては其處は武士の相身互ひ、互に致し致さる〜積りの臭い仲が積り積つて即ち近頃世に所謂政海の暗潮と爲りたるものにて是れには決して不思議はなけれども只不思議なるは嘘から眞の出づる世の中なればツイした戯れが昂じて眞の暗礁に變ずるみとなしとも測られず否な昨今は段々只の戯れ事と思はれざる節なきにしも非ざれば世間にては今日より早くも自由、進歩の兩黨が分裂したる後の事までを想像したるが追放の厄に遇ふ可きやと詮索するものあり而して其踏み止まる方は孰れにしても早く陸海軍大臣を手に入れたる方なる可し否な既に手に入れつゝある方なる可しと云ふものさへあり隨分手廻し善き話ながら尙は其先きを聞けば曰く薩派二分、長派三分、自由派五分、曰く是れ新内閣……

○憲政黨臨時大會に就て

關東倶樂部にては政府の根本的改革を斷行する事、官吏任用令を全廢する事及び外二件を議する爲めに憲政黨に向て大會を開かれたさ旨請求したる次第は前號の紙上に記載したるが今回黨々則を案するに臨時大會は總務委員に於て緊急の事件ありと認むるとき之を開く云々と規定しありて其間否は一に同委員の職權内にあれば他より容喙すべきにあらず目下此事に付總務委員は頻に評議中なれば恐て其請求に應ずるや否や未定なれども昨今憲政黨内の形勢は甚だ穏かならざる狀況あり て此際大會を開くが如きあらば直に紛擾を惹起すべき恐あり之と同時に心ある黨員中には成る可く開會を延引し其間に各派を調停し團結に局を結ばんとする者なきにあらざれども憲政黨は除りに尨大に失して纏め難き

○内閣所管の廢局と新設局

行政整理の結果、内閣所管にては官報局を廢止して其事務を大藏省に移し又内閣統計課を擴張して局と爲し局長を勅任として其下に奏任事務官二名を置く事に決定せし由

○所謂政海の暗潮

憲政黨中自由、進歩兩派の間柄は表面に稍剛の風波なく就中閣員間の交情は平板常調既れるが如く又變めたるが如く一日の偷安に秋天の傾きを逆り決して我より進んで追放分裂なども左る手暴き業を試みんとするものなれども未就官の不平運中に在ては離間を策するあり分裂を謀るあり或は只思はせぶりに躍起運動するもありて兎角世間は事あれがし其間には又浮ぶ瀬もあらん主義にて同氣相求め相呼應する其外間より機は乘ず可し逸す可からずと爲し薩派の一派、長派の一族が互に緣故ある端々より内々手を入れ口を容れて眞實分裂を企つるもあり此方は未だ左る思ひ切つたる所までの決心は着かざれども外間の應援亦自家の目的を遂ずるの方便ともなりぬ可しと、海の暗潮を爲りたるものにて是れには決して不思議はなけれども只不思議なるは嘘から眞の出づる世の中なればツイした戯れが昂じて眞の暗礁に變ずるみとなしとも測られず否な昨今は段々只の戯れ事と思はれざる節なきにしも非ざれば世間にては今日より早くも自由、進歩の兩黨が分裂したる後の事までを想像したるが追放の厄に遇ふ可きやと詮索するものあり而して其踏み止まる方は孰れにしても早く陸海軍大臣を手に入れたる方なる可し否な既に手に入れつゝある方なる可しと云ふものさへあり隨分手廻し善き話ながら尙は其先きを聞けば曰く薩派二分、長派三分、自由派五分、曰く是れ新内閣……

○工業試驗所の組織

今回農商務省に於て工業試驗所を設立するの見込にて既に其豫算の編成を終り法律案も略ぼ脱稿したる由なるが中央試驗所の設立費故三十五萬圓餘又各地方に於ける公立若し又は組合立の試驗所には其資本金の半額を補助する見込なりと又右に關する法律案は本月下旬に開會すべき農工商高等會議に諮問し同會に於て異存なき時は本期の議會に提出する事となるべしと今其法律案大要を聞くに同試驗所を六部に分ち工業技監一名技師及技手數名を置き其事務は民間の依頼に應じて爲すものと試驗所自から爲すものと行政上の必要に依り爲すものとの三種に區別せり即ち左の如し

一　民間の依頼に應じて爲すもの

(イ)製造用原料の分析試驗鑑定　(ロ)製造機械器具の檢定　(ハ)建築材用の試驗所の分析試驗鑑定　(ニ)試驗機械器具の檢定　(ホ)雜築

應答　(ロ)工業用機械器具の檢定

○各省高等官の定員

今回行政整理の結果、最も著しく判任官を減少す可しと雖も各省尊任書記官及び參事官の定員九名以下とあるを八名以下に限定し尙は省に依て書記官を置くの事を爲したれば其結果各省の高等官も一二名若くは兩三名づゝ淘汰さるゝに至る可しと云ふ

○會計檢査院と冗員淘汰

會計檢査院にては臨時軍事費調査の爲め特別に採用したる高等官もあり且つ普通勅奏の定員も各省に比して遙多なれば今回の行政整理と同時に多少淘汰せらるゝものあらんとなり

○縣治局の改稱

行政整理の結果に依り内務省縣治局は地方局と改稱するみとに決定せりと云ふ

○各省官吏の定員

今回行政整理の結果、各省官吏の定員は左の如し

内閣外務大臣　入江爲守　山井樂文　岡部長景

内務之部

農商務　入江爲守　山井樂文　岡部長景

正親町實正　牧野忠篤　青木信光　吉川重吉

松平康民　清浦奎吾　稻垣次郎　堀功

松平忠文　柳末德　黑田和志　金子堅太郎

陸海軍省

直平　安藤直行　久留嶋通簡　堀田正養

司法　藤丹羽長保　永井尚敬　大久保忠順

三好義藏　大蔵　牧野忠篤　青木信光　吉川重吉

○獨逸石炭の暴騰

獨逸石炭の暴騰は去る頃の電報に據れば獨逸中のバーデン、ヘッセン、ヘラルツ、ヴェストファリヤ、ザクセン、ボヘミヤ、ハンガリヤ、ルーマニヤ、ロシヤ、ベルギー、ホランド、ノルウェー、スウェーデン、ポルトガル、スペイン、ブル